

の城に居れり、浦上の長臣島村豊後守、後入道して貫阿彌といひしは、鷹取山の城に有て、威勢ありて能家を殺害せり。略直家物靜なる生得なりしが、十一歳の比より俄に愚昧になりて、誠に菽麥をもわきまへず、天文十五年、直家十五歳に成ぬ、母の方にゆけば、母涙を流し、三人中にも兄なれば、せめて人なみにもあれかしと思ひしに、すぐれたるおろかさよ、人なみならば、殿に申て、草履をもとらせなん物を、いかなる因果にて、かくうきことを見るやらんと、打しほれたるを、直家見て、側近く居より、實に愚なるには候はずといふ、母聞て、汝ほど愚ながらも、猶かしこしと思ふやと、いよ／＼なげく體なり、直家こゝに一の大事あり、誰にもかたらせ給ふな、もし洩し給ふほどならば、其事叶候まじといへば、母それはいかなる事ぞと問、直家よく聞せ給へ、祖父泉州をば島村が殺したりき、父仇を得討給はで、口惜くこそ候へ、いかにもして一度祖父の弔を遂んと存るに、島村を殺すに過たる事や候、われもかしこきと島村聞なば、其儘にてすて置べきや、只是のみ心を苦め謀をめぐらし、父祖の恥を雪ばやと存るなり、はや十五に成候ぬ、殿宗景をさす浦上に奉公仕らんやうをはからせ給へ、かりそめにも此一大事口に出させ給ふなといひたりしかば、母驚き且悦て、密に宗景に告て、直家初て仕へけり、

〔明良洪範〕利常前

鼻毛

延過テ見苦シケレドモ、是ヲ申出ス者ナシ、本多安房守ガ鏡ヲ土産

ニシテ、近習ノ士ニ申付、鼻毛ヲ夜詰メニハ、抜セテ見レドモ、知ラザルヨシニテ居給フ、此節近仕シケル掃除坊主、入湯ノ土産ニ、横山左衛門佐ガ指圖シテ、鼻毛ヌキヲ捧サセケル、利常是ヲ見給ヒテ、老臣以下ヲ招キ申サレケルハ、我鼻毛ノ延タルヲ、何レモ笑止ニ思ヒ、世上ニテ鼻毛ノ延タル虚氣者ナドイフハ、利常モ心得テ居ルゾ、略我今大名ノ上座ニシテ、官祿日本ニ知レタル利

常利口ヲ鼻ノ先ニ顯ハス時ハ、人氣ヅカヒシ、大キニ疑ヒ、存ジ寄ザル難ヲ請ル者也、我タハケヲ人ニ知ラセテコソ、心易ク三ヶ國ヲバ領シ、何レモ樂シマシムルハト宣ヒシト也、